

授業デザイン（3訂版）

教科	保健体育・国語	科目	体育・国語総合	授業者	永井 康裕（保体） 天野 智生（国語）
実施日時	令和1年11月11日（月） 6時限			対象クラス	2年C組（27人） 体育館

【研究授業の目的・ねらい】

①	教育目標の実現や資質・能力の育成に効果的な授業について研修する。
②	新教育課程で重視される教科横断的指導の内容・方法について意見交流する。
③	教室環境の整備に伴い新教材・教具を活用した授業について研修する。
④	AL型授業の展開（インプットとアウトプットのバランス調整）について研修する。
⑤	「深い学び」に繋がる授業の工夫（反転授業、問いの構造化、逆向き設計、ルーブリック）を研究する

【第一段階 求められている結果】 ※ 理解の6側面（説明、解釈、応用、パースペクティブ、共感、自己認識）

単元名	E.球技（ネット型 バレーボール）
⑥ 単元目標	①（体育）安定したボール操作によって、試合の中で三段攻撃を用いて得点することができる。 ②（保健体育、国語総合）目的や場に応じて、効果的に話したり、的確に聞き取ったりするなどの言語活動を充実させ、他者に伝える力を養うことができる。 ③（保健体育、国語総合、ICT）手本の動作（映像、画像）と自分や仲間の動作（映像、画像）とを比較し、自分や仲間の課題を文字化、言語化し、仲間と交流することができる。 ④（保健体育）一人一人の違いを大切にすることや、スポーツへの多様なかかわり方（する・見る・支える・知る）を体感し、多様性への理解を深めることができる。
⑩本質的な問い	①自分の動作や技術を向上させるために練習に取り入れなければならないことは何か。 ②仲間の動作や意見に触れることにはどのようなメリットがあるか。
⑪理解 動機/鑑	①客観的な視点から自分の動作を分析することで、自分の課題が明確に分かり、より主体的に実技に取り組むこと。 ②仲間の動作や意見に触れ、運動能力や感覚などは1人1人違うことや、1つの種目や動作に対しても、様々な見方・考え方があることを理解することができる。
⑫知識 ⑬技能	⑫種目名とその意味、三段攻撃とその役割、スポーツへの多様なかかわり方 ⑬自分や仲間の動作を文字化、言語化する方法、仲間と協働して技能の向上を図る方法、4つの技能（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ、スパイク）

【第二段階 評価のための証拠】 ※ 該当する項目を枠で括る（網掛けする）又は記入する。

評価のための証拠	パフォーマンス課題、テスト、小論文、振り返りシート、作品、生徒の応答、生徒の質問、観察 その他（ ）
ルーブリック	有 ・ 無

【第三段階 学習計画】 ※ W（目標）H（関心）E（経験）R（振り返り）E（評価）T（調整）O（組織化）

1 各授業のテーマ（主となる学習活動の内容や問い等）

第1時の内容	○バレーボール（排球）を様々な角度から捉え、課題を明確にする。（本時）
第2～6時の内容	○オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブの4つの技能についてスキルテストを行う。（第2時） ○4つの技能を分習法で反復練習する。（第3～6時）
第7～8時の内容	○練習試合を行い、試合の中で4つの技能を生かすことができるようにする。 ○4つの技能のスキルテストを行い、第2時のスキルテストの結果と比較する。
第9～10時の内容	○リーグ戦を行い、三段攻撃を用いて得点できるようにする。

2 予習（有 ・ 無）

内容分量	
-------------	--

3 問いの構造 ※ Q (発問)、I (指示)、A (答え)、W (作業)

問いの種類	指導者の働きかけ	学習者の活動
テーマとしての問い	<p>○自分の技能向上を図る中で、下記の3点はどのような意味合いをもつか。</p> <p>①種目名の意味合いから種目特性を明確にし、理解すること。</p> <p>②客観的な視点から自分の動作を見つめ、自分の課題を明確にすること。</p> <p>③動作を文字化、言語化し、仲間と交流すること。</p>	<p>○以下3点のようなことを感じ、生涯を通じてスポーツに親しむ態度を養う。</p> <p>①漠然と取り組むのではなく、目的意識をもって種目に取り組む必要性。</p> <p>②頭の中のイメージと実際の動作の誤差を少なくすることが上達につながる。</p> <p>③仲間のものの見方や考え方に触れ、一人一人の違いを大切にすること。</p>
①導入(つかみ)の発問	<p>【全体】 ホワイトボード(大)を使用する。</p> <p>Q. バレーボール、排球という種目名にはどのような意味があるだろうか。 (例) 必要であれば例を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール=籠球 →籠にボールを入れる種目 ・サッカー=蹴球 →ボールを蹴る種目 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>A.</p> <p>①「排」という文字の意味を考察する。 ボールを打つときの腕の動作、飛来したボールを自コートから相手コートに打ち返すことなどから、「(外に)押し出す」を意味する「排」の字を用いる。</p> <p>②“volley”という単語の意味を考察する。 テニスの“ボレー volley”を語源とし、「ボールが地面に着かないうちに打ち返す」ことを指す。</p>
②思考拡散の指示	<p>I.</p> <p>①各グループのホワイトボードに手本を貼付し提示する。</p> <p>②4つの技能(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ、スパイク)ごとにグループに分かれ、それぞれ自分の動作を撮影しなさい。</p> <p>③自分の映像と手本との相違点を文字化し、ワークシートに書き込みなさい。</p>	<p>【グループ活動】 セルフ、ペアワーク 1グループは6~7人で構成する。</p> <p>W.</p> <p>①タブレットを用いて、各自の動作の映像を撮影する。(動作の可視化)</p> <p>②撮影した各自の映像と手本とを比べ、動作の課題を文字化し、ワークシートに書き込む。(動作の文字化)</p>
③思考焦点化の指示	<p>I. ワークシートとタブレットの映像を基に、グループ内の仲間と自分の動作の課題について交流しなさい。</p> <p>I. グループ内で話し合っ、それぞれの技能を行う際のコツを、ホワイトボード(小)のポイント欄に書き込みなさい。</p>	<p>【グループ活動】 ペア、グループワーク</p> <p>W.</p> <p>①自分の動作の映像とワークシートを用いて、グループの仲間と動作の課題について話し合う。(動作の言語化)</p> <p>②グループ全員で話し合い、手本が示されているホワイトボード(小)のポイント欄に、各グループに割り当てられた技能を行うコツを記入する。(言語活動)</p>
④まとめの指示 (思考深化 洞察の発問)	<p>【全体】 各技能のホワイトボードを並べる。</p> <p>I. 前に並べられたホワイトボードを見て、各技能を行う際のポイントをワークシートに書き込みなさい。</p> <p>Q. 指摘が不十分の場合には思考深化の発問をする。</p>	<p>W. 前に並べられたホワイトボードを見て、各技能を行う際のポイントをワークシートに記入する。</p>

【参観者のメモ欄】

